



霞ヶ浦市民協会 NEWS

VOL. 1 No. 2
12月号

(社)霞ヶ浦市民協会 〒300 茨城県土浦市川口2-13-6
TEL 0298-21-0552・21-0660 FAX 0298-21-6209
郵便振替口座 00120-9-726025 / 名義:(社)霞ヶ浦市民協会



パソコンによる流域管理システムを公開。

湖沼会議から1年 改めて考えよう 流域管理と環境容量

連続シンポ始まる

霞ヶ浦市民協会では、昨年の第6回世界湖沼会議から1年が経過したのを機に、霞ヶ浦問題について改めて考えようと、さる11月17日(日)、「湖沼の流域管理と環境容量」をテーマとしたシンポジウムを開催しました。

「世界湖沼会議から1年……流域管理と環境容量」と題されたシンポジウムは、土浦市の国民宿舎水郷を会場に、当日午後1時30分から開始。講師には昨年の湖沼会議でも基調講演した、田淵俊雄氏(元東大教授)、相崎守弘氏(島根大教授)の2人を迎え、霞ヶ浦流域の汚染負荷の管理と、環境容量をどう捕えるかといった問題を市民生

活との関わりから論じました。

まず、田淵氏は、下水道が設置されても接続率が低いこと、負荷容量の大きい単独浄化槽が増えていることを挙げ、今後人口の伸びを考えると、現在の水質保全計画では不十分だと指摘。水処理から一歩踏み込んだ「節水、節約」「リサイクル」、さらに新たな負荷原因を作らない「規制」まで視野に入れた流域管理が必要だと述べました。

県内3分の1という広い流域面積を持つ霞ヶ浦で新たな負荷原因となる排水を出さないためには、行政はもちろんのこと、湖沼会議でも指摘された住民、企業、科学者が一体となった取り組みが必要となります。田淵氏は、この点でも霞ヶ浦市民協会などが果たす役割が大きいと指摘しました。

続いて、相崎氏は、阿見町を対象にパソコンを使った流域管理シス

テムを紹介。地図の画像情報を基に合併処理浄化槽、単独処理浄化槽、土地利用ごとの面源負荷量などのデータを入力。今後、つくば市、土浦市でも同様のデータベースを作成する予定とのことで、流域管理のネットワークづくりの現状が示されました。

霞ヶ浦の環境容量が限界に達しつつある中、流域でのそれをいかに押さえるかがポイントとなります。市民が身近に利用できるパソコンによる流域管理は今後の一つの方向性を示したと言えます。相崎氏からは、データベース化が市民協会の手で行えるようになればとの期待が寄せられました。

※このシンポジウムは、エコーいばらき環境保全基金助成事業として行われたもので、第2回以降も引き続き行われる予定です。

泳げる霞ヶ浦 実現へ向け チャレンジ!

市民協会が産声をあげて4ヵ月あまり、いよいよこれから豊かな霞ヶ浦を目指した市民協会のチャレンジが始まります。市民協会は何を目指すのか、具体的に何をやっていくのか、どういう体制ですすめるのかなど、発足まえにも論議はしましたが、これからさらに、会員の方々をはじめ、市民、行政、企業、研究者などのご意見をいただきながら、煮つめていく必要があります。その前提で現在の市民協会の活動方向を記します。

<泳げる霞ヶ浦を目標イメージとして>

豊かな霞ヶ浦の実現には、多くの地域、立場、世代の人々が結集することが不可欠になります。そのためには、皆が共感できる分かりやすい目標イメージが大切です。目標イメージというのは簡単に絞り込めるものではありませんが、協会では「泳げる霞ヶ浦」の実現を先導役として掲げて進めたいと思います。泳げる霞ヶ浦を実現するためには、市民一人一人のライフスタイル、企業活動、農漁業、地域運営がどうあればよいかを考え、それらに関係づけることが大切です。

つまり、こうしたい、こうありたいという方向付けをベースにしながら悪循環から好循環へもっていくことです。それが循環型の社会の形成につながっていくと思われれます。

<モデルを作る具体的なアクション>

方向付けと同時に大切なことは、具体的にアクションを起こし、いいモデルを作ることです。そのためには身近なところから具体的な事業を通して、互いに啓発しさらに行動していかなくてはなりません。市民協会には市民や団体、企業など、多くの人々が参加しています。

さらに公益法人として、行政や企業、研究者などと協力関係(パートナーシップ)を作りやすい立場にあります。このような特徴を活かして事業を展開し、それに当たっては、目標年次を設定して例えば「泳げる霞ヶ浦市

民アクションプラン」づくりといったものをベースとして進めたいと考えています。また事業の推進に当たっては、立場や地域、世代のなど乗り越えなければならない場面が多々あると思いますが、小さなところからでも新しい豊かな価値をつくり出すという姿勢で、一人一人が、家族が、地域が、そして企業がチャレンジしていくことが求められます。

<霞ヶ浦市民から地球市民へ>

幸か不幸か、私たち霞ヶ浦市民は使った水が必ず自分の飲料水として帰ってくるという構造の中に暮らしています。

つまり、私たちの暮らしの結果がすぐ霞ヶ浦の水質状況に現われることを意識する必要があります。そのため、環境保全の視点から、一人一人がライフスタイルの改善や企業活動の環境改善に取り組まなければなりません。また地域や国を越えて交流し、先進事例に学ぶことも大切です。同時にいろいろな事業を通して得られた知恵を外へ向かって発進する役割もあります。

また、最近では地球の温暖化、国境を越えた酸性雨など地球環境問題が現実のものとなってきました。その意味で一人一人が地球市民としての自覚を持つことが大切になってきます。

<交流啓発から実践へ>

社団法人は人が財産の組織です。会員一人一人が社員という位置づけになります。そのため会員が積極的に活動できるよう、双方型の会報紙づくりやアンケート、連続シンポジウムなどを通して、会員の意見やアイデア、情報を集めてまいりたいと思います。活動していくための体制としては、総会のもと理事会が核となります。さらに具体的な活動をしやすいように、交流・啓発部門、実践・研究部門、全体運営部門の三つの部門があり、そこに委員会やプロジェクトを立ち上げて事業を進めていきます。交流・啓発部門では、交流会や学習会、連続シンポジウムなどを通して、霞ヶ浦への浄化意識を高

霞ヶ浦市

各界から おめ

設立おめでとう

霞ヶ浦問題協議会長
土浦市長 助川弘之



社団法人霞ヶ浦市民協会の設立、誠におめでとうございます。

昨年開催された第6回世界湖沼会議は、世界湖沼会議市民の会を中心に多くの市民の参加により、これまでにない市民参加型の国際会議として各方面に高い評価を得ておりますこと

め、多くの方が参加できるよう、楽しさや体験を重視して進めます。実践・研究部門は、日常生活や企業活動を通して、霞ヶ浦の浄化に実践していけるよう、調査研究や実践事業を展開します。全体運営部門は、情報活動をベースとしながら内外の活動がスムーズに進めるようにします。

以上市民協会のこれからの活動の展望について述べさせていただきました。また社団法人の運営として、人的にも、金銭的にも、<マネジメント(経営)の意識が>重要になります。一人一人が社員という意識で、ぜひ、これからの運営に関して、気軽にご意見をお寄せください。これからが本当のスタートですので、皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。

(常務理事 伊藤春樹)

市民協会 発進!

でとうのメッセージ第2弾

は御案内のとおりであります。

その市民の会も初期の目的を達成し本年3月に解散されましたが、霞ヶ浦を自然豊かな湖として次世代に遺したいという多くの人の強い思いを引継ぎその力を結集し、新たに霞ヶ浦浄化を推進する公益法人として社団法人霞ヶ浦市民協会が設立されましたことは、霞ヶ浦流域の自治体にとって大変心強く思っております。

協会の設立に当たりましては、堀越理事長さんを始め発起人会の皆様方には、大変な御苦勞をなされたとお聞きしておりまして、改めて皆様の御尽力に対し心から敬意を表するものであります。

霞ヶ浦を豊かで清らかな湖に再生し、子々孫々に引き継いでいくためには、住民、研究者、行政、企業等が様々な立場の下に協力、協調関係を発揮することが不可欠であります。

霞ヶ浦市民協会の皆様へ

土浦商工会議所会頭 神林 正雄



ちょうど1年前、昨年10月、霞ヶ浦は、第6回世界湖沼会議で文字どおり世界の注目を浴びました。参加国数79カ国、登録者数8,000人にのぼる大規模な国際会議となりました。そしてこの会議の幕を閉じるにあたってこれからの問題点としては、いかにこの関心を持続させるか、そして、いかにこれを施策化させるかにあったと思います。

この度の霞ヶ浦市民協会の設立により、人と湖沼の調和という共通認識のもと、一段と強いパートナーシップの構成を推進し霞ヶ浦の環境改善に幅広く取り組んでいけるものと期待すると共に水質浄化の大きな推進力となるものと確信致しております。

古来より私達に限りない恩恵を与えてくれた霞ヶ浦の水質浄化は、流域住民の悲願であります。

霞ヶ浦流域40市町村で構成する霞ヶ浦問題協議会におきましても、かけがえのない郷土の財産である霞ヶ浦の再生に、精魂込めて取り組んで参る所存でありますので、皆様方の限らない御協力を心からお願いする次第であります。

最後に協会の新しいキャッチフレーズ「霞ヶ浦家族」のもと益々の御発展をご祈念申し上げます。

ところで、この世界湖沼会議を縁の下で支えた大きな力が数多くありましたが、私の印象に残ったのは、「世界湖沼会議市民の会」、そして「霞ヶ浦情報センター」の存在でした。

今、この二つの組織が中心となって、関心の持続と施策化、というテーマに大きく一歩踏み出されたことは、あの湖沼会議の生んだ、極めて大きな成果でしょう。

当商工会議所は、その事業計画に毎年、霞ヶ浦浄化を始めとする環境問題をあげております。とはいえ事業報告となると、国や県への要望・陳情といった形で終わっているのも事実であります。

しかし、平成8年度の事業報告には、社団法人霞ヶ浦市民協会へ入会、という1行が加わることになりました。そしてこの報告が、土浦商工会議所の、開発と自然保護の調和を目指した、新たな環境問題への取り組みへの、第一歩とするよう努力いたしたいと思っております。

パートナーシップのリーダーに
建設省霞ヶ浦工事事務所
所長 戸谷英雄



霞ヶ浦市民活動をリードする「社団法人霞ヶ浦市民協会」の設立を心からお慶び申し上げます。

昨年の第6回世界湖沼会議では、広く市民が参加するかたちとなったことが、大きく評価されたわけですが、その役割を十分に果たされた「世界湖沼会議市民の会」の行動理念とエネルギー、そして「霞ヶ浦情報センター」の民間シンクタンクとしての機能が結びつき、更に活動の範囲を広め、各種公益事業を実施する公益法人として、それこそいろいろな困難を克服しつつスタートしたことに、心から敬意を表しますとともに、大きな期待を寄せているところです。

霞ヶ浦はややもすると、アオコの霞ヶ浦、汚濁の進んだ霞ヶ浦と暗いイメージが先行してきた感があります。確かに水質あるいは、水辺環境等多くの課題を抱えてはいますが、そのゆったりとした景観、豊かな自然は訪れる人々に潤いと安らぎを与えるに違いありません。

この豊かな県民共通の財産である湖の水質や環境を、今後どう改善していくのか、大変難しい大きな課題です。

世界湖沼会議の霞ヶ浦宣言でも「我々は行政、産業界、学会、住民がパートナーシップを構築し、世界の湖沼の環境回復とその望ましい管理に共同で取り組むことを求める」と言っています。私もこのパートナーシップなしには、市民協会のキャッチフレーズでもある「泳げる霞ヶ浦」の実現は難しいと思っています。

市民協会には、是非この四者のコーディネーターとしての役割を果たしていただきたいと願っています。

最後に私共も霞ヶ浦の環境改善には、今まで以上に努力していくつもりですので、いろいろのご意見、ご提案をいただけるようお願いをし、機関紙発行に当たってのご挨拶とさせていただきます。

理事ひとことメッセージ



副理事長 岩波嶺雄

アオコなど有毒藻類の問題、農薬などの科学物質の影響など大きな課題がなお残されている。

霞ヶ浦ウォッチャーとしての機能も求められており、いささかでも応えていきたい。



常務理事 伊藤春樹

三陸の国、釜石生まれ。21年前、東京の中小河川を120km踏査して、水問題に関心もつ。難しいがゆえにやりがいのある霞ヶ浦。巡り会った仲間と時を大切にしながら、泳げる霞ヶ浦の実現を目指したい。



理事 池田憲彦

親子学習委員会等を通じて市民の会の活動に参加してきました。全ての会員が、何らかの委員会に所属して自分の出来る範囲で自分の関心にもとづいて活動できる、そんな交流の場となるような協会を作ってゆきたいと思います。

K-NETダイジェスト

1996年9月10日

本欄では霞ヶ浦に関する新聞記事の見出しを中心に、ダイジェストを収録しています。

(収録紙、S I:新しいばらき、A:朝日、Y:読売、M:毎日、S:産経、T:東京、I:茨城、J:常陽)

9月

2日 「霞ヶ浦市民協会」設立記念式典、「泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル」(Y, I, A, J)

水質浄化へ実験、微生物製剤使用沼に水流発生装置(A)

8日 アサザの苗植え付け、北浦で市民や園児参加(J)湖面にかれんな花アサザ咲き始める(I)

10日 コンクリート護岸もうやめまず。建設省が方向転換(A)

11日 霞ヶ浦第3期水質保全計画、休耕田、ため池を活用、市民組織の活動促進(J) 濁水調整を解除、那珂、久慈川調整協議会(M)

12日 利根川水系の取水制限再開(M)

15日 工業用水の「水余り」県が水権

転用を検討(M)

16日 尖塚大池50ヘクタールを保全、公園化、住・都公団が検討(J)

17日 「霞ヶ浦町」でイメージアップ! 出島村町制施行と名称変更議案(M, 18日J) 汚れの流入ひと目で、霞ヶ浦で新システム、パソコン画面図示、地理情報システム(A)

23日 「霞ヶ浦の花」咲くアサザ(A)

25日 台風17号の影響、霞ヶ浦の川エビ増殖用ネット流出(J)

26日 利根川水系取水制限すべて解除(A)

27日 「かすみがうら線」がいい、土浦商工会議所青年部が名称変更の要望書(M)

10月

3日 「土浦バイオパーク」存続、住民の願いに建設省折れた(A, M, 5日Y) 霞ヶ浦と北浦環境保全で市民団体が流域の衆議院選立候補予定者に公開質問(Y)

5日 アオコ毒霞ヶ浦でも検出(J) 報告「アオコ毒」連載(J, 6日, 7日, 8日)

6日 湖岸施設を見学、霞ヶ浦研究会の観察会(J)

9日 「アオコ毒」の波紋詳細な調査、

公開を(J)

11日 浄化訴え北浦1周、潮来町延方スポーツ少年団(A, M, 13日Y)

23日 世界湖沼会議から1年、水質浄化の兆し見えず生態系異変か漁獲減は深刻(A) ミニ湖沼会議毎年開催へ、世界湖沼会議の精神継承(S, J, S I)

25日 水がきれいになった? ホテイアオイ生育不良、備前川などで回収作業(T, J) 市民団体県に霞ヶ浦、北浦の生物配慮の条例要望(J, A) 泳げる霞ヶ浦へ、作文、論文を募集(A, M) 流入河川サミット始まる、美浦(J)

26日 霞ヶ浦導水事業来月水戸トンネル貫通も那珂川水取口が難航(S I) 霞ヶ浦をめぐって、世界湖沼会議から1年(T, 27日, 31日連載)

28日 霞ヶ浦再生への道、世界湖沼会議から1年(S) 霞ヶ浦でEポート大会(J)

29日 アユの走行性調査那珂川取水口霞ヶ浦導水で建設省(J)

30日 底生生物回復傾向に、アンモニア濃度低下、多様性なくなり単純化も(J)

事務局日誌

9月

- 1日 (社)霞ヶ浦市民協会設立記念式典
泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル
- 3日 霞ヶ浦環境センター(仮称)基本構想策定委員会幹事会
- 4日 会報編集委員会
- 6日 事務局会議
- 9日 大成建設(社)社内報の取材
- 11日 茨城県霞ヶ浦提言レポート審査員
- 14日 大好きいばらき「人と川を結ぶ交流のつどい」中里パネリスト
- 19日 三役事務局会議
- 20日 県霞ヶ浦対策課来局
- 24日 美浦村環境課、美駒婦人会バイオパーク見学
- 25日 霞ヶ浦ヤングレポート審査会
- 26日 泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル実行委員会、懇親会

- 27日 理事石津昭三氏の褒章を祝う会理事長出席(東京)、事務局会議
- 28日 環境科学会シンポジウム(東工大)
- 30日 県霞ヶ浦対策課と打合せ(水戸)

10月

- 1日 霞ヶ浦工事事務所打合せ(潮来)
- 2日 ビオパークで建設省と記者会見
霞ヶ浦ヤングレポート審査
- 3日 いばらき湖沼環境会議打合せ(水戸)
理事会(第4回)
- 5日 霞ヶ浦研究会フィールド観察会
- 9日 土浦市内河川水質調査打合せ
三役事務局会議
建設省霞ヶ浦工事事務所長との打合せ
- 11日 会報編集委員会
- 14日 水質調査コアグループ会議
- 15日 県霞ヶ浦対策課来局

- 16日 石岡城南地区公民館自然観察会講師沼沢
- 17日 県経営者協会横田氏来局
事務局会議
- 20日 タンカイ調査最終回
境川現地調査
- 23日 倉庫取り付け
地域交流センター来局
花室川現地調査
茨城県ヨット連盟との打合せ
- 24日 新川、境川現地調査
NHK視聴者会議(水戸支局)
- 25日 アシ紙すき実演(つくばテプコ)
- 26日 Eボート参加(麻生町)
- 27日 水質調査コアスタッフ会議
- 28日 建設省霞ヶ浦工事事務所と意見交換会(土浦第一ホテル)
- 29日 河川環境保全モニター会議(国民宿舍水郷)
新川、境川、備前川現地調査
- 30日 水質調査の件で市役所訪問
- 31日 県霞ヶ浦対策課来局

理事ひとことメッセージ



理事 石津昭三

筑波研究学園都市のホテル専門の経営コンサルタント、(社)日本経営士会に所属して43年、純粹道楽としてヨット歴48年、財団法人日本ヨット協会の理事長を経て現在は参与、茨城県ヨット連盟顧問、自然の宝庫、霞ヶ浦に夢を追う市民とともに！



理事 磯山隆一

土浦JC時代から霞ヶ浦問題に関心を持ってきました。水質は良くなりませんが、あきらめずに活動を続けていきたいと思ひます。
昭和30年2月土浦生まれ水瓶座B型41歳。来年は厄年のため、禁欲節制の日々を過ごしています。



理事 井口百合香

1990年代から仲間と「雑木林で遊ぶ会」をはじめました。間伐材の皮をむくと、水がぴっと飛び散ります。林がまるごとおいしい水のふるさとなんだと実感するひとときです。霞ヶ浦のまわりにももっと木を植えよう！

霞ヶ浦 トビックス

人と湖沼の調和をめざして 「いばらき湖沼環境フェア」

11月8日、9日と2日間にわたり、いばらき湖沼環境フェア'96が湖沼湖岸の大洗、旭、茨城の3町村村で開催されました。

この会議は、昨年10月に開催された第6回世界湖沼会議で盛り上がった水質浄化の意識の高まりを、次世代へ継続させることを目的とし開かれたものです。

いばらき湖沼会議 (大洗文化センター) 8日

この会議には、約1000人が参加し、橋本知事のあいさつの後、ジャーナリストとして活躍中の幸田シャミンさんが「水について考える」というテーマで基調講演を行い、行動の枠組みをはっきりさせてスケジュールをたてることの必要性を強調しました。

当協会の堀越昭理事長もパネリストとして出席し、持論の霞ヶ浦家族について述べ、盛会のうちに終了しました。

こども環境会議 (いこいの村湖沼) 8日

県内の小中学生約300人が参加して、自分たちで調べた水質浄化

や身近な環境問題の研究、実践活動などを発表しました。どの発表も小中学生とは思えない立派な発表でした。講評でコーディネーターの広瀬誠先生が文献や事例を無条件に信じないで自分の目で確かめることが大事です、といわれた言葉はたいへん重みがありうなずかせるものがありました。

当協会の真山淑枝副理事長もコメントーターとして出席し、これ等の研究は、理科の分野としてだけとらえるのではなく、社会的事象も視野に入れ、歴史的、社会的背景を考えていけるよう、各教科との連携をとり合って、総合的な学



習に向かっていくことが必要ではないかと意見を述べました。

いばらき湖沼環境フェスティバル(湖沼自然公園) 9日

湖沼を一望の下に見下ろす小高い岡の上の広場に、テントが並び、県内各地の物産店や、水質浄化の展示に家族づれなど多くの人々が集まり、たいへん賑やかでした。特設舞台では、湖沼流域の郷土芸能、水ののど自慢なども行われ、参加者の人気を集めていました。水質浄化キャンペーンのテントで行っ

ていた、湖沼の水などを使ったCODのバックテストは、近辺の人にたいへん関心を持たれ、そのほか自然観察会、環境クイズ、大声コンテスト、ドジョウやシジミのつかみどりなど約5000人の人々で終日賑わいました。

アオコに関する最新の 研究成果の講演会

「霞ヶ浦」と言えば、連想ゲームのように「アオコ」と答えそうになった10数年前に比べて、目で見えるアオコ発生は少なくなったものの安心はできないことが、この秋、東京で開催された講演会で論議されました。この講演会は日本環境化学会が10月4日に主催したもので、会場になった野口英世記念会館に約150名の研究者が集まりました。演者となった6人の研究者のうち、実に5人が霞ヶ浦をフィールドにしており、日本のアオコ研究は霞ヶ浦の研究者によってリードされていることを印象づけました。

今まで、霞ヶ浦をはじめとして「アオコ発生の機構」が盛んに研究されてきましたが、まだ解明されつくしたとは言えず、さらに研究が必要なこと、最近の霞ヶ浦における植物プランクトンの遷移(優占種の変化)が意味するものは何か、特に漁業への影響について監視が大切であることが先ず強調されていました。さらにアオコが生産する毒物質の分類や生態系での動態、最新の分析方法などが報告されました。特にオーストラリアなど欧米では飲料原水中のアオコ

水資源

水質
測定器

人間



セントラル科学株式会社

茨城営業所/土浦市港町1-4-19ワコー第2ビル ☎0298-24-3398 FAX0298-24-6236
本社/東京都文京区本郷3-23-14ショウエイビル ☎03-3812-9186 FAX03-3814-7538
他支店/営業所 大阪・福岡・千葉・名古屋・横浜・仙台

NAKAGAWA SHŌJI



2001年快適空間を創造する



中川商事株式会社

〒300 茨城県土浦市真鍋1-11-12 ☎0298-21-3731#

毒の濃度基準値が設定されようとしているが、日本の行政の対応が鈍いことが指摘されていました。



霞ヶ浦のアユ、定着か

霞ヶ浦では、1992年以来漁獲対象になるほどアユが穫れ、話題になっていましたが、このほど、茨城県内水面水産試験場調査研究報告第32号(1996)で所員の根本隆夫氏らが、近年のアユ分布状況と再生産について15ページにわたり報告しました。

それによると、霞ヶ浦・北浦および流入河川でアユは分布しているが、特に北浦で個体数が多いこと、巴川では10月中旬に産卵することも確認され、北浦では巴川が供給源である可能性が高いことが示されました。

また、通常アユは清流にすみ、石の表面のソウ類を食べていますが、霞ヶ浦水系のアユは、成長とともにプランクトン食からイサザアミやユスリカ中心の食性に変化するということです。しかし、海からの遡上群の存在も否定できず、根本氏らは今後、アユが陸封されたと言えるかどうか、さらに詳細に調査するという事です。

会員だより

出島村赤塚湖岸のこと

岡野静江

準備号の「産卵することのできないフナ」の記事を読み、昭和40年代の出島村赤塚の湖岸が鮮明に思い出されました。そこは、甲斐氏の言われるようにフナの産卵と生育に格好の場所でした。この赤塚湖岸の防波堤は、明治時代に曾祖父(久保田理右衛門)が馬の背に石をくくりつけて運び、その後、昭和16年に父(岡野繁)が人力、馬車、舟を使って間伐材、銚子石を運び、私財を投じて作り上げたものです。この時の工事に関わった80歳前後の里人はまだ何人か健在です。

その頃の湖岸は、石の上から入っていくと、裸足に砂の感触が柔らかで、ヒシ、ミズアオイが豊かにゆれていました。そして堤の石の間に植えられた猫柳の芽がふくらむ頃、孵化したフナの群れののっこみが始まります。田んぼのあぜ堀を霞が浦から700m~800

さかのぼり、旧道沿いにある私宅の周りの掘割を通して、おすなおすなと家の後ろの共同農業用水池まで遡ってくるのです。特に雨の日と雨上がりの日が大変でした。この時期、ねずみをとるよりフナに味をしめた飼い猫は掘割の角でいつも待ち構えていたものです。

甲斐氏の、「最近外来種のおオクチバスやブルーギルなどに、在来種が食べられてしまうと問題になっていますが、しかし水性植物群落の減少によって在来種の生活空間がなくなったためという背景を見逃すことができません。湖岸の自然を復元しない限り、外来種の魚たちが湖を占領するという異常な事態は解決されないでしょう」ということを書かれた記事を読んで数日後、9月8日の朝日新聞に「コンクリート護岸はもう止めます」という生態系に配慮した建設省の方針転換が発表されました。建設省があらゆる情報を集めて、霞が浦再生のための護岸作りにスタートされることを念じております。



コンクリート護岸で縁取りされた高浜入り(昭和末期)

筑波の友

『筑波の友』は購読者の皆様に支えられています
年間購読料4000円・郵便振替00380-8-35548/一部書店にて1冊 300円

〒305 茨城県つくば市 東新井16-2 107号 株式会社 STEP TEL 0298-58-0376 FAX 0298-55-5932

学ぶ子達よ!素直で強くあれ!

須田義塾

小3~高3
受験指導

- 本部・高津教室 ☎0298-24-0761
- 高津第二教室 ☎0298-24-1751
- 高校生教室 ☎0298-24-8098
- 阿見S・C教室 ☎0298-88-8343

(社)霞ヶ浦市民協会 会員募集中!

カラー刷りの入会案内リーフレットができています。必要な方は電話等で部数をお知らせいただければ、すぐお送りします。

個人会員: 1口3,000円/法人会員・団体会員: 各1口10,000円

ご意見・ご提言・投稿など
どしどしお寄せください

今月号から、会員の方からのご意見・ご提言・投稿などを掲載する「会員だより」がスタートしました。

霞ヶ浦に関すること、当協会へのご意見、本紙に対するご提言など、どんなことでもけっこうです。お気軽に封書・ハガキ・ファックスなどでお寄せください。

宛先: 〒300 茨城県土浦市川口2-13-6
FAX 0298-21-6209
TEL 0298-21-0660

お知らせ

新年霞ヶ浦シェイプアップ & バードウォッチング

当協会では会員はじめ市民の皆さんのご協力を戴いて、バードウォッチングと湖岸の清掃活動を行います。作業の後は新年会を兼ね、とん汁で体をあたためます。ぜひ多くの皆さんのご参加をお願いします。

日時:平成9年1月11日(土)

イベント情報

平成8年12月

1日(日)土浦穴塚大池月例観察会「冬鳥を見よう」

(9:30~12:00、土浦学園線穴塚宿近く居酒屋「北乃一丁」駐車場前集合、穴塚の自然と歴史の会主催)

牛久自然観察の森月例植物観察会(10:00~12:00)

ゴミ最終処理施設の安全性と環境への影響を考えるシンポジウム(9:30~12:00、取手市戸頭公民館、戸頭団地自治会・利根川の水と自然を守る取手連絡会共催)

つちうら市民ミュージカル「あの水の声を聞こう」(開演:昼の部13:30、夜の部17:30土浦市民会館、入場料3000円、土浦市文化協会など主催)

3日(火)東谷田川水質調査(9:30~12:00、谷田部暮しの会主催、しろうと水質探偵団協力、連絡先TEL:0298-21-0552沼沢)

8日(日)つくば市洞峰公園探鳥会(8:30~11:30、同公園北側駐車場集合、日本野鳥の会茨城支部主催)、土浦市乙戸沼公園探鳥会(14:00~16:00、同公園東側駐車場集合、日本野鳥の会茨城支部主催)

10日(火)県南市民活動交流会打ち合せ(19:00~21:00、土浦亀城プラザ、連絡先TEL:0298-55-2752原田)

15日(日)石岡市高浜入り探鳥会(9:00~12:00、JR常磐線高浜駅前集合、恋瀬川河口付近でカモ類やアシ原の鳥を楽しむ、日本野鳥の会茨城支部主催)

22日(日)火渡り神事(加波山三枝祇神社、真壁町)

※本欄に、水を中心にした環境問題の講演会、シンポジウム、集会などの行事予定をお寄せ下さい。なるべく前月15日までに。

午前10時30分から昼頃まで
集合場所:土浦市水郷公園駐車場
(水生植物園となり、水道事務所側)

参加申込:(社)霞ヶ浦市民協会事務局
0298-21-0552, 21-0660

参加費:500円、軍手やゴミ袋は主催者で用意します。

台所排水処理装置のモニター募集

霞ヶ浦に流入する汚濁負荷源のうち、大きな割合を占める生活排水対策が課題となっていますが、台所排水を処理する廉価小型装置

「ダイワエース」を開発したダイワ工業(株)(平根健社長は、土浦市出身で当協会会員)が、この装置のモニターを募集しています。この装置は生物膜濾過を原理とするもので、BOD2500mg/lの台所排水を100mg/lまで浄化する性能があるそうです。モニターは、下水道を使っていない方(合併処理浄化槽のお宅では、前処理用に設置可能)をお願いしたいということです。モニターの金銭負担はありません。ご希望の方はダイワ工業(株)平根さん(☎03-3433-0866)までご連絡下さい。

「霞ヶ浦市民協会NEWS」

(仮題) Vol.1 No.2



発行日:1996年12月10日

発行所:(社)霞ヶ浦市民協会 〒300 茨城県土浦市川口2-13-6

発行人:堀越 昭

編集人:高木純子

印刷所:柳沢印刷所

編集スタッフ:沼沢 篤・今泉文彦・鹿志村啓子